

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月11日

【四半期会計期間】 第75期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 株式会社大本組

【英訳名】 OHMOTO GUMI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大本 万平

【本店の所在の場所】 岡山市北区内山下1丁目1番13号

【電話番号】 (086)225-5131(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 大藤 強

【最寄りの連絡場所】 岡山市北区内山下1丁目1番13号

【電話番号】 (086)225-5131(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 大藤 強

【縦覧に供する場所】 株式会社大本組東京支店
(東京都千代田区永田町二丁目17番3号)

株式会社大本組大阪支店
(大阪市北区南森町二丁目4番4号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第74期 第2四半期 連結累計期間 | | 第75期 第2四半期 連結累計期間 | | 第74期 | |
|------------------------------|-------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------|-------------------------|
| | | 自 至 | 平成22年4月1日 平成22年9月30日 | 自 至 | 平成23年4月1日 平成23年9月30日 | 自 至 | 平成22年4月1日 平成23年3月31日 |
| 売上高 | (百万円) | | 34,722 | | 32,238 | | 78,940 |
| 経常利益 | (百万円) | | 872 | | 523 | | 2,203 |
| 四半期(当期)純利益 | (百万円) | | 838 | | 461 | | 1,680 |
| 四半期包括利益又は包括利益 | (百万円) | | 500 | | 357 | | 1,355 |
| 純資産額 | (百万円) | | 46,869 | | 47,726 | | 47,722 |
| 総資産額 | (百万円) | | 72,844 | | 74,504 | | 80,503 |
| 1株当たり四半期(当期) 純利益金額 | (円) | | 27.29 | | 15.00 | | 54.69 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 | (円) | | | | | | |
| 自己資本比率 | (%) | | 64.3 | | 64.1 | | 59.3 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | | 2,232 | | 1,624 | | 5,202 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | | 65 | | 2,649 | | 14,231 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | | 353 | | 353 | | 354 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 | (百万円) | | 7,072 | | 16,888 | | 18,267 |

| 回次 | | 第74期 第2四半期 連結会計期間 | | 第75期 第2四半期 連結会計期間 | |
|---------------|-----|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | | 自 至 | 平成22年7月1日 平成22年9月30日 | 自 至 | 平成23年7月1日 平成23年9月30日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 | (円) | | 9.62 | | 6.16 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第74期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、個人消費や生産、輸出等については持ち直しの動きがみられております。ただし、電力供給の制限や、欧州の国債問題の拡大懸念等から、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しました。

建設業界におきましても、震災復興対策が本格的な着手に至らず、未だ収束を見ない原発事故処理や被災地以外の地域の公共投資予算の縮小に加えて、回復の鈍い民間設備投資等と相まって、引き続き厳しい受注環境が続きました。

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、322億38百万円(前年同期比7.2%減)となりました。利益につきましては、営業利益4億57百万円(前年同期比42.0%減)、経常利益5億23百万円(前年同期比39.9%減)、四半期純利益4億61百万円(前年同期比45.0%減)となりました。

セグメント別の業績につきましては以下のとおりであります。(セグメント別の業績につきましては、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。)

土木事業

土木事業の当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は104億98百万円(前年同期比14.1%増)となり、セグメント利益は6億10百万円(前年同期比82.0%増)となりました。

建築事業

建築事業の当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は215億47百万円(前年同期比14.9%減)となり、セグメント利益は17億89百万円(前年同期比27.2%減)となりました。

不動産事業

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間では、不動産事業による売上高はありません。

その他

その他事業の当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は1億98百万円(前年同期比6.2%減)となり、セグメント損失は2百万円(前年同期は0百万円のセグメント利益)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて59億98百万円減少し、745億4百万円となりました。

流動資産は、受取手形・完成工事未収入金等の減少等により53億8百万円減少、固定資産は、保有株式の株価の下落に伴う投資有価証券の減少等により6億89百万円の減少となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて60億2百万円減少し、267億78百万円となりました。

流動負債は、支払手形・工事未払金等の減少等により59億6百万円減少、固定負債は、繰延税金負債の減少等により95百万円の減少となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3百万円増加し、477億26百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末残高から13億78百万円減少し、168億88百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

前年同期の22億32百万円減少に対して16億24百万円増加となりました。その主な要因は売上債権の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

前年同期の65百万円増加に対して26億49百万円減少となりました。その主な要因は定期預金の預入による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間は、前年同期と同様に、主に配当金の支払によって3億53百万円の減少となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は64百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 124,500,000 |
| 計 | 124,500,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日) | 提出日現在発行数 (株) (平成23年11月11日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------|
| 普通株式 | 31,704,400 | 31,704,400 | 大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 単元株式数は 1,000株で あります。 |
| 計 | 31,704,400 | 31,704,400 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成23年9月30日 | | 31,704 | | 5,296 | | 4,314 |

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (千株) | 発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%) |
|--|--|---------------|----------------------------|
| 有限会社百栄 | 岡山市北区今 4 9 23 | 8,432 | 26.60 |
| 財団法人大本育英会 | 岡山市北区内山下 1 1 13 | 5,094 | 16.07 |
| 有限会社大百興産 | 岡山市北区今 4 9 23 | 2,140 | 6.75 |
| 大本組従業員持株会 | 岡山市北区内山下 1 1 13 | 1,422 | 4.49 |
| 大本 榮一 | 岡山市北区 | 1,412 | 4.46 |
| 株式会社中国銀行 | 岡山市北区丸の内 1 15 20 | 1,324 | 4.18 |
| 大本 百穂 | 東京都渋谷区 | 1,322 | 4.17 |
| 大本 愛子 | 岡山市北区 | 466 | 1.47 |
| モルガンスタンレーアンドカンパニーエルエルシー (常任代理人 モルガン・スタンレーM U F G証券株式会社) | 1585 Broadway New York, New York 10036, U.S.A. (東京都渋谷区恵比寿 4 20 3 恵比寿 ガーデンプレイスタワー) | 372 | 1.17 |
| ザバンクオブニューヨーク リーディングジャスデックアカウン ト (常任代理人 株式会社三菱東京 U F J銀行) | AVENUE DES ARTS, 35 KUNSTLAAN, 1040 BRUSSELS, BELGIUM (東京都千代田区丸の内 2 7 1) | 318 | 1.01 |
| 計 | | 22,307 | 70.36 |

(注) 当社は自己株式を973千株(持株比率3.07%)保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記の大株主から除外しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------|----------|------------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 973,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 30,564,000 | 30,564 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 167,400 | | 1単元(1,000株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 31,704,400 | | |
| 総株主の議決権 | | 30,564 | |

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の名義書換失念株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式835株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%) |
|---------------------|--------------------|----------------------|----------------------|---------------------|--------------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社大本組 | 岡山市北区内山下 1 1 13 | 973,000 | | 973,000 | 3.07 |
| 計 | | 973,000 | | 973,000 | 3.07 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日) |
|----------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 14,285 | 14,006 |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 40,847 | 34,679 |
| 有価証券 | 4,000 | 6,000 |
| 未成工事支出金 | 4,007 | 3,751 |
| 材料貯蔵品 | 46 | 50 |
| 繰延税金資産 | 268 | 268 |
| 未収入金 | 4,087 | 4,034 |
| その他 | 2,360 | 1,754 |
| 貸倒引当金 | 73 | 24 |
| 流動資産合計 | 69,830 | 64,521 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 4,663 | 4,696 |
| 無形固定資産 | 129 | 113 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 4,844 | 4,640 |
| 長期貸付金 | 19 | 14 |
| その他 | 1,190 | 680 |
| 貸倒引当金 | 174 | 161 |
| 投資その他の資産合計 | 5,879 | 5,173 |
| 固定資産合計 | 10,672 | 9,983 |
| 資産合計 | 80,503 | 74,504 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形・工事未払金等 | 19,983 | 13,191 |
| 未払金 | 256 | 249 |
| 未払法人税等 | 349 | 61 |
| 未成工事受入金 | 4,117 | 5,609 |
| 完成工事補償引当金 | 188 | 183 |
| 賞与引当金 | 491 | 474 |
| 工事損失引当金 | 321 | 310 |
| その他 | 540 | 261 |
| 流動負債合計 | 26,248 | 20,342 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 3,142 | 3,094 |
| 役員退職慰労引当金 | 776 | 823 |
| 資産除去債務 | 37 | 37 |
| 繰延税金負債 | 552 | 468 |
| その他 | 2,022 | 2,012 |
| 固定負債合計 | 6,531 | 6,435 |
| 負債合計 | 32,780 | 26,778 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 5,296 | 5,296 |
| 資本剰余金 | 4,314 | 4,314 |
| 利益剰余金 | 37,774 | 37,882 |
| 自己株式 | 482 | 482 |
| 株主資本合計 | 46,903 | 47,010 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 819 | 715 |
| その他の包括利益累計額合計 | 819 | 715 |
| 純資産合計 | 47,722 | 47,726 |
| 負債純資産合計 | 80,503 | 74,504 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | | |
| 完成工事高 | 34,722 | 32,238 |
| 売上高合計 | 34,722 | 32,238 |
| 売上原価 | | |
| 完成工事原価 | 31,534 | 29,396 |
| 売上原価合計 | 31,534 | 29,396 |
| 売上総利益 | | |
| 完成工事総利益 | 3,188 | 2,841 |
| 売上総利益合計 | 3,188 | 2,841 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 販売費及び一般管理費合計 | 1 2,399 | 1 2,383 |
| 営業利益 | 788 | 457 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 29 | 24 |
| 受取配当金 | 49 | 46 |
| 受取賃貸料 | 64 | 56 |
| その他 | 1 | 4 |
| 営業外収益合計 | 145 | 132 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 4 | 5 |
| 賃貸収入原価 | 31 | 29 |
| シンジケートローン手数料 | 16 | 16 |
| その他 | 10 | 14 |
| 営業外費用合計 | 62 | 66 |
| 経常利益 | 872 | 523 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | - |
| 貸倒引当金戻入額 | 60 | - |
| その他 | 3 | - |
| 特別利益合計 | 63 | - |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 0 | - |
| 投資有価証券評価損 | 22 | 3 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 37 | - |
| 訴訟和解金 | - | 12 |
| その他 | 1 | - |
| 特別損失合計 | 62 | 15 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 873 | 507 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 35 | 46 |
| 法人税等合計 | 35 | 46 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 838 | 461 |
| 四半期純利益 | 838 | 461 |

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 838 | 461 |
| その他の包括利益 | | |
| 其他有価証券評価差額金 | 337 | 103 |
| その他の包括利益合計 | 337 | 103 |
| 四半期包括利益 | 500 | 357 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 500 | 357 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | - | - |

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
|---------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 873 | 507 |
| 減価償却費 | 206 | 102 |
| 退職給付引当金の増減額(は減少) | 15 | 48 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 7 | 17 |
| 完成工事補償引当金の増減額(は減少) | 30 | 4 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 4 | 62 |
| 工事損失引当金の増減額(は減少) | 153 | 10 |
| 受取利息及び受取配当金 | 79 | 70 |
| 支払利息 | 4 | 5 |
| 投資有価証券評価損益(は益) | 22 | 3 |
| 固定資産除却損 | 0 | - |
| 固定資産売却損益(は益) | 0 | - |
| ゴルフ会員権売却損益(は益) | 3 | - |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 37 | - |
| 会員預り金の返還による支出 | 35 | 10 |
| 売上債権の増減額(は増加) | 6,238 | 6,168 |
| 未成工事支出金の増減額(は増加) | 1,003 | 256 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 89 | 4 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 4,095 | 6,792 |
| 未成工事受入金の増減額(は減少) | 506 | 1,492 |
| その他の流動資産の増減額(は増加) | 2,614 | 409 |
| その他の流動負債の増減額(は減少) | 148 | 382 |
| その他の固定資産の増減額(は増加) | 71 | 9 |
| その他の固定負債の増減額(は減少) | 14 | 46 |
| 未払消費税等の増減額(は減少) | 148 | 36 |
| 未収消費税等の増減額(は増加) | 48 | 251 |
| 小計 | 2,223 | 1,887 |
| 利息及び配当金の受取額 | 77 | 69 |
| 利息の支払額 | 4 | 5 |
| 法人税等の支払額 | 82 | 326 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 2,232 | 1,624 |

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | 16,118 | 2,618 |
| 定期預金の払戻による収入 | 20,218 | 18 |
| 有価証券の取得による支出 | 8,500 | - |
| 有価証券の償還による収入 | 4,500 | - |
| 有形固定資産の取得による支出 | 29 | 56 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 1 | - |
| 無形固定資産の取得による支出 | 6 | 10 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 2 | 2 |
| 投資有価証券の売却による収入 | - | 15 |
| 貸付けによる支出 | 0 | 0 |
| 貸付金の回収による収入 | 4 | 5 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 65 | 2,649 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 自己株式の取得による支出 | 0 | 0 |
| 自己株式の売却による収入 | 0 | 0 |
| 配当金の支払額 | 353 | 353 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 353 | 353 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | - | - |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 2,520 | 1,378 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 9,592 | 18,267 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 1 7,072 | 1 16,888 |

【追加情報】

| 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日) |
|--|
| (会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。 |

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
|--------------|---|---|
| 従業員給料手当 | 549百万円 | 540百万円 |
| 退職給付引当金繰入額 | 50百万円 | 62百万円 |
| 賞与引当金繰入額 | 213百万円 | 204百万円 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 11百万円 | 53百万円 |
| 貸倒引当金繰入額 | 66百万円 | 23百万円 |
| 減価償却費 | 46百万円 | 42百万円 |
| 通信交通費 | 170百万円 | 177百万円 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
|--------------------------------|---|---|
| 現金預金勘定 | 15,790百万円 | 14,006百万円 |
| 預入期間が3か月を超える定期預金 | 9,218百万円 | 3,118百万円 |
| 取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券) | 500百万円 | 6,000百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 7,072百万円 | 16,888百万円 |

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成22年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 353 | 11.5 | 平成22年3月31日 | 平成22年6月30日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成23年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 353 | 11.5 | 平成23年3月31日 | 平成23年6月30日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他(注) | 合計 |
|-----------------------|---------|--------|-----|--------|--------|--------|
| | 土木 | 建築 | 不動産 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 9,197 | 25,320 | | 34,518 | 204 | 34,722 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | | | | | 6 | 6 |
| 計 | 9,197 | 25,320 | | 34,518 | 211 | 34,729 |
| セグメント利益 | 335 | 2,458 | | 2,794 | 0 | 2,794 |

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゴルフ場運営事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-------|
| 報告セグメント計 | 2,794 |
| 「その他」の区分の利益 | 0 |
| セグメント間取引消去 | 1 |
| 全社費用(注) | 2,004 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 788 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他(注) | 合計 |
|-----------------------|---------|--------|-----|--------|--------|--------|
| | 土木 | 建築 | 不動産 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,498 | 21,547 | | 32,046 | 191 | 32,238 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | | | | | 6 | 6 |
| 計 | 10,498 | 21,547 | | 32,046 | 198 | 32,244 |
| セグメント利益又は損失() | 610 | 1,789 | | 2,399 | 2 | 2,396 |

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゴルフ場運営事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-------|
| 報告セグメント計 | 2,399 |
| 「その他」の区分の利益 | 2 |
| セグメント間取引消去 | 0 |
| 全社費用(注) | 1,939 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 457 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
|----------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 27円29銭 | 15円00銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(百万円) | 838 | 461 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(百万円) | 838 | 461 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 30,734 | 30,730 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月4日

株式会社大本組
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石黒 訓 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 朋之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社大本組の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社大本組及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。